

レフェリーレポート

大分県 ハンドボール協会 児玉 真太郎
島村 祐輔

【参加大会】

令和2年2月6日(木)～9日(日)

令和元年度第48回九州高等学校ハンドボール選抜大会

第43回全国高等学校ハンドボール選抜大会九州地区予選大会

開催地：沖縄県 八重瀬町東風平体育館 沖縄県立武道館アリーナ

【研修内容の報告】

○ボディランゲージ

- ・7mスローや罰則を判定した際、違反を起こしたプレーヤーまたは周囲に対し、**何の違反であったのかを大きく1回ジェスチャーをする。**
- ・ジェスチャーが小さいと、何が許されない行為なのか選手に伝わらない。
- ・許されない行為を明確に示さなければならない。

○基準作り

- ・後半に罰則を適用しなくて済むよう、**前半に基準を明確に示す**ことが大切。
- ・空中の選手に対しての接触やプッシング、ピボットのライン際の攻防など、罰則につながる可能性のある事象に対しては、プレー後にコミュニケーションを取ることで基準を示すことが必要。
- ・ある事象について注意をした場合、同一選手が同じ事象を繰り返した場合は注意で済ませてはならない。**同じ行為を繰り返すのであれば段階的罰則、2分間退場を適用する。**
- ・プレーヤーの安全を確保するためにも、競技規則8の4、5を正しく適用する。

○CR(コートレフェリー)とGR(ゴールレフェリー)の役割

- ・ゴールエリア際の判定は全て**GR**が判定する。
(今後は対角のオフenseiveファールを**GR**が判定する)
- ・ピボットの攻防は**GR**と**CR**が連携して管理する。
(**GR**がインカムで伝え、**CR**がボディランゲージで示す等)
- ・発展性のないプレーは**CR**が判定する。

○レフェリーの心構え

- ・**冷静で穏やか**であること。感情的になったり高圧的な態度を取ったりしてはいけない。
- ・違反をしたプレーヤーへの罰則の適用ではなく、**違反されたプレーヤーのケアを第1に考える。**
- ・中立な立場であること。必要以上にコミュニケーションを取るの**はフェアではない。**

【大会を通して】

今回の大会では、4試合担当させていただき、他県のレフェリーの方々や審判長、副審判長の先生方から貴重な意見をいただきました。

研修では今後のレフェリングの方向性や、ペアとしての課題、競技規則についての理解を深めることができました。

今回学んだことを大分県内で共通理解が図れるように努めていき、今後も研鑽を積んでいきたいと思えます。